

科目		単位 (時間数)	時期	講師名 (職名) (時間数)	
周産期の診断・治療論		2 (45)	1 学期	院内講師 院外講師	
目標					
周産期の助産診断に必要な診断と治療について理解できる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	備考
1	2	生殖に関連した疾患	1) 性感染症、不妊症、月経困難症、子宮筋腫、卵巣腫瘍	講義	
2	2	妊娠期の異常とハイリスク妊娠	1) 妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、HELLP 症候群	講義	
3	2		2) 妊娠持続期間の異常 流産、早産 (頸管無力症、絨毛膜羊膜炎)、過期妊娠		
4	2		3) 着床異常 異所性妊娠、前置胎盤	講義	
5	2		4) 胎児付属物の異常 胞状奇胎、羊水過多、羊水過小		
6	2	分娩期の異常と産科合併症	5) 胎児の異常 多胎妊娠、子宮内胎児死亡、血液型不適合妊娠、胎児発育不全 (FGR)	講義	
7	2		6) 合併妊娠 子宮筋腫合併妊娠		
8	2		1) 産道の異常 ①CPD の診断法 ②試験分娩		
9	2		2) 娩出力の異常 ①微弱陣痛 ②過強陣痛	講義	
10	2		3) 進入の異常 前在頭頂骨進入、後在頭頂骨進入 胎児機能不全とその診断		
11	2		4) 分娩に伴う疾患の診断と治療 ①前置胎盤、常位胎盤早期剥離 ②子癇、HELLP 症候群、肺塞栓症、羊水塞栓 ③子宮破裂	講義	
12	2		5) 会陰裂傷・頸管裂傷縫合の基礎知識 外陰血腫 会陰切開・縫合術【模型演習】		
13	2	産科手術・産科処置	6) 産科手術・産科処置 ①分娩時の産道裂傷と処置	講義 演習	

10	2		②急速遂娩の適応・要約・条件 会陰切開、クリステレル子宮底圧迫法、吸引分娩 ③ハイリスク分娩の管理 誘発分娩、TOLAC（既往帝切後妊娠の経膈分娩トライアル）、双胎の経膈分娩 ④人工妊娠中絶、子宮内胎児死亡 子宮頸管縫縮術 ⑤骨盤位牽出術、帝王切開術	講義	
11	2	新生児の生理と病態、低出生体重児	1) 新生児の生理 2) 新生児の系統的診察法	講義	
12	2		3) ハイリスク新生児の管理 ①低出生体重児の成長発達の特徴 ②低出生体重児の特徴と治療 ③新生児の疾患と治療 RDS（呼吸窮迫症候群）、MAS（胎便吸引症候群）、TTN（一過性多呼吸）、高ビリルビン血症 低酸素性虚血性脳症、胎児循環遺残	講義	
13	2		④症状と治療 無呼吸発作、慢性肺疾患、低血糖 低カルシウム血症 ⑤新生児外科疾患 （食道閉鎖、横隔膜ヘルニア、鎖肛など） 4) NICU の管理と成育医療	講義	
14	2	産科麻酔、無痛分娩	1) 総論 ①麻酔の種類 全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、局所麻酔 ②産科麻酔の対象 妊娠中の手術、帝王切開、無痛分娩 ③産科麻酔の特殊性 胎児への影響 母体の生理に由来する危険性 2) 各論 ①妊娠中の手術の麻酔 ②帝王切開の麻酔 ③無痛分娩	講義	

15	2	新生児の整形外科疾患	<ol style="list-style-type: none"> 1) 骨格の発生と発達 2) 先天性股関節脱臼の症状、病態、治療 3) 先天性内反足 4) 先天性骨系統疾患 ダウン症候群、骨形成不全症、軟骨異栄養症、軟骨無形成症、二分脊椎、脊髄髄膜瘤 5) 分娩外傷 鎖骨骨折、分娩麻痺（上腕神経麻痺、橈骨神経麻痺） 6) 脳性麻痺 	講義	
16	2	新生児と眼疾患	<ol style="list-style-type: none"> 1) 眼の解剖生理 2) 胎児期における網膜の発達 3) 未熟児網膜症 4) 未熟児網膜症の発生機序 5) 未熟児網膜症の予防、治療 	講義	
17	1	母子の臨床薬理	<ol style="list-style-type: none"> 1) 母体と薬 <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠時期による胎児の発生と薬剤の影響（臨界期） ・妊娠中に注意すべき薬剤（催奇形性・胎児毒性） アミノグリコシド系抗結核薬 降圧薬、抗けいれん剤、テトラサイクリン系抗生物質、大量のビタミンA、抗てんかん薬、ワファリン、抗がん剤、経口血糖降下薬、非ステロイド系消炎鎮痛薬 ・妊娠中に使用可能な薬剤 抗生物質、降圧薬、糖尿病薬、抗甲状腺薬、解熱・鎮痛薬 	講義	
18	2		<ol style="list-style-type: none"> 2) 異常妊娠に用いる薬剤 <ul style="list-style-type: none"> ・子宮収縮抑制薬（塩酸リトドリン） 硫酸マグネシウム（マグセント注） ・妊娠高血圧症候群の薬物療法 ・子癇発作時の薬物 3) 産褥期の薬剤と児への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・母乳移行する薬剤 	講義	
19	2		<ol style="list-style-type: none"> 4) 分娩時に使用する薬剤 <ul style="list-style-type: none"> ・陣痛促進剤の特徴、半減期、通常至適濃度、安全限界、プロスタグランディン、オキシトシン 5) 女性と薬 <ul style="list-style-type: none"> ・経口避妊薬 ・性感染症治療薬 6) 骨粗鬆症治療薬 	講義	

20	2	母子の内分泌疾患	1) 妊娠糖尿病 (GDM) ・妊娠糖尿病の母体合併症 児の合併症 ・妊婦の耐糖能検査、スクリーニング 法、診断法 ・妊娠糖尿病の血糖管理の方法	講義	
21	1		2) 甲状腺疾患合併妊娠、検査 ・甲状腺疾患合併妊娠における合併症 ・妊娠中の甲状腺機能検査 ・甲状腺機能亢進症と妊娠、治療方針 ・甲状腺機能低下症と妊娠、治療方針	講義	
22	2	妊産婦、新生児・ 乳幼児の皮膚疾 患、アレルギー	1) 皮膚の構造 2) 皮膚の所見(紅斑、紫斑、丘疹など) 3) 妊娠期の皮膚変化、皮膚疾患 ①妊娠中の生理的な皮膚変化 (色素沈着、妊娠線) ②アトピー性皮膚炎をもつ妊婦の妊 娠中の管理 4) 乳幼児の皮膚疾患 脂漏性湿疹、おむつ皮膚炎など 5) 乳幼児のアトピー性皮膚炎	講義	
23	2	母子と循環器疾患	1) 妊娠に伴う母体の循環器系の変化 2) 心疾患患者の妊娠・分娩 3) 妊娠に関する循環器的問題 ・仰臥位低血圧症候群 ・血栓症 ・羊水塞栓症 ・周産期心筋症	講義	
24	1	終講試験 (45分)		試験	
授業形態		講義			
評価方法 点数配分		筆記試験 100点 履修規程第5条、第6条に定めるとおりとする。			
テキスト		・助産学講座2 ・助産学講座6 ・助産学講座7 ・助産学講座8 ・新生児学入門			
参考図書等		・産婦人科診療ガイドライン2023 産科編 ・分娩介助学			
備考		講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。			

科目	単位 (時間数)	時期	講師		
※ 助産診断・技術学 I	2 (45)	1 学期	教育主事 教 員 院内講師 院外講師		
目標					
妊娠期における助産過程の展開に必要な診断と技法、および助産の実践に必要な基本技術を修得できる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	備考
1	2	妊娠期の助産診断と助産過程の展開【事例学習】	1) 助産診断学の概要、診断類型 2) 妊娠経過の診断 (母体・胎児及び付属物) 3) 健康生活診断 基本的ニード、心理的側面、社会的側面、出産育児行動	講義	
2	2		4) 妊娠期の助産診断 (京野 都さん事例) ①妊娠初期の助産過程の展開 1 パラグラフ 1	講義	
3	2		②妊娠初期の助産過程の展開 2 パラグラフ 2	講義	
4	2		③妊娠中期の助産過程の展開 3 パラグラフ 3	講義	
5	2		④妊娠後期の助産過程の展開 4 パラグラフ 4	講義	
6	2	妊娠期の助産技術	1) 妊婦のフィジカルアセスメントと助産技術 ・腹部触診、胎児心音聴取、骨盤外計測、内診	演習 GW	
7	2		2) 妊婦健康診査シミュレーション① 京野 都さん事例 パラグラフ 4 妊娠 32 週場面 ロールプレイ	演習 GW	
8	2		妊婦健康診査シミュレーション② S「最近・・・」 妊婦の訴えに対応してみる	演習 GW	
9	2	妊娠期の主体性を尊重した出産を支援するケア	1) セルフケア能力を高める支援 ①妊娠期の栄養指導 ②母乳育児推進と乳房ケアの基礎理論	講義 GW	
10	2		③出産準備教育、バースプラン ④マイナートラブルに対する援助 ⑤妊娠期に必要な届け出と保護規定	講義 GW	

11	2	妊娠期の正常からの逸脱の診断とケア	1) 妊娠期の正常からの逸脱の診断とケア ①切迫流産・切迫早産	講義 GW	
12	2	ハイリスク妊娠の アセスメントとケア	②糖代謝異常合併 ③甲状腺疾患合併	講義 GW	
13	2		④妊娠高血圧症候群 ⑤子宮筋腫合併	講義 GW	
14	2		⑥多胎妊娠、子宮内胎児発育遅延 ⑦前置胎盤	講義 GW	
15	2	心理・社会的問題 をもつ妊婦のケア	1) 心理・社会的問題をもつ妊婦のケア 若年妊婦、高齢妊婦、在日外国人 特定妊婦のケアと多職種連携	講義	
16	2				
17	2	周産期の超音波診 断法、ME 機器とそ の診断法	1) ME 機器とその診断法 ①胎児心拍陣痛図判読の実際 ・妊娠期の評価、分娩期の評価	講義	
18	2				
19	2		②超音波による診断 妊娠初期、妊娠中・後期 超音波による血流計測 ③包括的な胎児の健康状態の把握 ・バイオフィジカル・プロフィールスコア	講義 演習	
20	2		2) 超音波診断法の実際 【演習】 ・診断装置と使い方		
21	2	妊婦健康診査シミュレーション③ (金魚鉢式) シミュレーション、デブリーフィング		演習	
22	2	妊婦健康診査 OSCE、リフレクション		試験	
23	1	終講試験 (45分)		試験	
授業形態		講義、演習、GW			
評価方法 点数配分		筆記試験 80点 技術試験 (妊婦健康診査 OSCE) 20点 履修規程第5条、第6条に定めるとおりとする。			
テキスト		・助産学講座6 ・助産師基礎教育テキスト4 ・助産師基礎教育テキスト7			
参考図書等		・マタニティ診断ガイドブック ・産婦人科診療ガイドライン2023 産科編			
備考		講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。 ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

科目	単位(時間数)	時期	講師名		
※ 助産診断・技術学Ⅱ	1 (30)	1 学期	教 員		
目 標					
分娩期における助産過程の展開に必要な診断と技法、および助産の実践に必要な基本技術を修得できる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	備考
1	2	分娩の生理	1) 分娩3要素と分娩機転 2) 骨産道 ①骨盤を形成する骨、骨盤の区分 ②骨盤入口の形態 ③骨盤潤部と骨盤開角、仙骨形態 ④骨盤出口部と恥骨弓角 ⑤骨盤の形状と分娩の異常 児頭骨盤不均衡、反屈位、 児頭下降停止 ⑥X線骨盤計測および読影 3) 軟産道 ①子宮下部 ②会陰及び骨盤底筋群 ③産道に関連する血管—子宮動脈—	講義	
2	2		4) 娩出力 ①陣痛の測定法、強さの表現法 ②腹圧(怒責、いきみ) 5) 胎児および付属物 ①胎位・胎勢・胎向 ②胎児の産道通過 —児頭の固定・陥入—回旋異常	講義	
3	2		6) 分娩が母体及び胎児に与える影響 ①母体の身体的変化、心理的变化 ②胎児の健康度の評価	講義	
4	1		7) 母体・胎児健康診査の検査 ①妊娠中の臨床検査：妊娠の診断法、 胎児胎盤機能検査、胎児血採取 ②母子感染症 風疹、サイトメガロウイルス 単純ヘルペス 水痘、ATL、GBS、HIV、HCV、HBV	講義	
5	2	分娩期の助産診断と助産過程の展開 【事例学習】	1) 分娩期の助産診断、診断類型 2) 経過診断 分娩時期、経過の正常・異常の予測 胎児健康度の診断 3) 健康生活診断 基本的ニード、心理的側面、社会的側面、 出産育児行動	講義	

6	2		4) 分娩期の助産診断 (京野 都さん事例) ①入院時の初期診断 (パラグラフ 1) ・分娩開始徴候、分娩開始の診断、入院判断、分娩経過の予測 ②胎児健康度の診断 ・胎児心拍数図の判読	講義	
7	2		③分娩第 1 期の診断とケア (パラグラフ 2) ・ケアプランの立案 ・助産診断の評価と修正 (加速期) ・内診のタイミング、破水の診断	講義	
8	2		④分娩第 2～3 期の診断とケア (パラグラフ 3) ・子宮口全開大の近づいた徴候 ・分娩の準備時期 (器材準備、分娩室移動、分娩体位)	講義	
9	2		⑤分娩後 2 時間の診断とケア (パラグラフ 4) ・子宮復古の観察と判断 ・母子早期接触ケアと判断 ・離床開始時期の判断 ・助産録の記載	講義	
10	2	分娩期の正常からの逸脱の診断とケア	分娩期の正常からの逸脱の診断とケア ①前期破水 ②微弱陣痛、回旋異常、陣痛促進	講義	
11	2		③誘発分娩	講義	
12	2		④胎児機能不全 (急速遂娩の必要な波形パターン)	講義	
13	2		⑤産科危機的出血 ⑥硬膜外麻酔分娩	講義	
14	2		分娩介助技術の理論	1) 入院～分娩第 1 期ケア ・産痛緩和、体位の工夫 ・基本的ニードの充足、分娩促進ケア 呼吸法、リラクゼーション、栄養 排泄、睡眠 ・家族への支援 2) 分娩直後～2 時間のケア ・バースレビュー ・排尿ケア	講義
15	2	3) 分娩介助技術 1 ①分娩介助の基本 (理論) 仰臥位分娩の介助法		講義	
16	1		筆記試験 (45 分)	試験	

評価方法	筆記試験 100点 履修規程第5条、第6条に定めるとおりとする。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・助産学講座7 ・助産師基礎教育テキスト5 ・分娩介助学
参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> ・マタニティ診断ガイドブック ・産婦人科診療ガイドライン2023 産科編 ・無痛分娩パーフェクトガイド
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事例学習は予習を前提として授業に臨むこと。 ・授業時期は並行あるいは前後することがある。 <p>※この科目は実務経験のある教員による授業科目である</p>

科目		単位 (時間数)	時期	講師	
※ 助産診断・技術学Ⅲ		2 (45)	1 学期	教 員 院内講師 院外講師	
目 標					
産褥・新生児期における母子助産過程の展開に必要な診断と技法、および助産の実践に必要な基本技術を修得することが出来る。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	備考
1	2	産褥期の助産診断と助産過程の展開 【事例学習】	1) 産褥期の助産診断、診断類型 2) 経過診断 産褥復古の診断 3) 健康生活診断 基本的ニード、心理的側面、社会的側面、出産育児行動	講義	
2	2		4) 産褥期の助産診断 (京野 都さん事例) ①産褥 1 日目の助産過程の展開 1 パラグラフ 1	講義 GW	
3	2		②産褥 4 日目の助産過程の展開 2 パラグラフ 2	講義 GW	
4	2	新生児期の助産診断と助産過程の展開 【事例学習】	1) 新生児期の助産診断、診断類型 2) 経過診断 胎外生活適応の診断 (生後 24 時間以内) 新生児の成熟度評価 (外表的所見、神経学的所見) 生理的黄疸、生理的体重減少の診断 正常逸脱の診断とケア 3) 健康生活診断 養護、環境 4) 新生児期の助産診断 (京野 都ベビー事例) ①生後 24 時間以内の助産過程の展開 1 パラグラフ 1	講義 GW	
5	2		②生後 4 日目の助産過程の展開 2 パラグラフ 2	講義 GW	

6	2	産褥期の助産技術	<ul style="list-style-type: none"> 1) 産褥復古を促す援助 2) 日常生活の援助 栄養、排泄、睡眠、動静、清潔 不快症状とセルフケア 3) 育児、家庭生活へ向けての援助 入院中の保健指導：育児、授乳 産後の動静、性生活、家族計画 4) 親役割獲得の援助 母子・父子関係 5) 退院後の継続ケアと地域社会資源との連携 	講義	
7	2	産褥期の正常経過からの逸脱の診断とケア	<ul style="list-style-type: none"> 1) 産褥の正常逸脱が予測される分娩時の状況とリスク査定、予防、早期発見・対処 <ul style="list-style-type: none"> ①分娩に伴う損傷 (会陰裂傷Ⅲ度以上、外陰部血腫) ②弛緩出血後 ③子宮復古不全 胎盤ポリープ、晩期産褥出血 ④産褥熱、尿路感染症 ⑤恥骨結合離開 ⑥マタニティブルー、産褥精神障害 ⑦乳腺炎 	講義	
8	2		<ul style="list-style-type: none"> ⑧静脈瘤、塞栓症 ⑨帝王切開術後のケア 	講義	
9	2	心理・社会的問題をもつ褥婦のケア	<ul style="list-style-type: none"> 1) 産褥うつスクリーニング (EPDS) 2) 虐待のリスク査定と多職種連携 3) 特定妊婦の地域連携 	講義	
10	2		<ul style="list-style-type: none"> 4) 周産期のメンタルヘルス ・マタニティブルーズ ・産後うつ 	講義	
11	2	乳房ケア	<ul style="list-style-type: none"> 1) 母乳育児推進 2) 乳房ケア ・産後の乳房の変化と乳汁分泌の生理 ・乳房ケアの基礎理論 (ラクテーション、BS ケア、SMC、桶谷式など) 	講義	
12	2		<ul style="list-style-type: none"> 3) 母乳育児支援の実際 ・ポジショニング、ラッチ・オン ・母子分離時のケア ・補足の判断 	講義 演習	
13	2		<ul style="list-style-type: none"> 4) 母乳栄養確立への支援 ・出産前教育 ・産褥入院中のアセスメントと評価 ・退院後の母乳栄養継続への支援 	講義	

14	2		5) 特別な支援を必要とする場合のケア ・乳汁うっ滞時のケア ・乳腺炎のケア ・断乳を余儀なくする場合	講義	
15	2	新生児期の助産技術	1) 新生児の健康診査法、諸計測	演習	
16	2		2) 新生児の沐浴の実際 新生児の沐浴技術 リフレクション		
17	2				
18	2	ハイリスク新生児の診断とケアの実際	1) 出生後 24 時間以内のアセスメントとケア 2) 早期新生児期（生後 7 日目まで）のアセスメントとケア	講義	
19	2		3) ハイリスク新生児のケアの原則 (1) ファミリーセンタードケア (2) ディベロップメンタルケア (3) 母乳育児への支援 (4) 感染対策 (5) フォローアップ (6) ハイリスク新生児のケアと倫理的課題 4) NICU の管理	講義	
20	2		5) アセスメントとケアの実際 (1) 体温管理 (2) 呼吸・循環管理 (3) 黄疸の管理 (4) 栄養管理 (5) 合併症に対するケア (未熟児網膜症、未熟児貧血等)	講義	
21	2		6) 親子関係発達促進ケア 7) 退院時期のケア (1) 障害なく退院する児・家族へのケア (2) 地域連携 ・障害を持って退院する児・家族へのケア ・医療的介入が必要なまま退院する児・家族へのケア ・死亡退院の場合の児・家族へのケア	講義	
22	2		8) ハイリスク新生児のケア【演習】 ①保育器の原理、取扱いの実際 ②入院受け入れ～急性期ケアの実際 ③保育器収容中の児のケアの実際 観察、環境調整、おむつ交換、 ④ディベロップメンタルケア	演習	

23	1		筆記試験 (45分)	試験	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 80点 ・技術試験：沐浴技術 20点 <p>*筆記試験、技術試験をそれぞれ合格することで単位認定する。 履修規程第5条、第6条に定めるとおりとする。</p>				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・助産学講座7 ・助産学講座8 ・助産師基礎教育テキスト6 ・助産師基礎教育テキスト7 ・母乳育児支援スタンダード 				
参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> ・マタニティ診断ガイドブック ・助産業務ガイドライン2019 「正常分娩急変時のガイドライン」 ・エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期2020 ・日本助産学会 (日本助産学会ホームページ参照) 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事例学習は予習を前提として授業に臨むこと。 ・講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。 <p>※この科目は実務経験のある教員による授業科目である</p>				

科目	単位 (時間数)	開校時期	講師		
※ 助産技術演習	1 (30)	1 学期	教 員 院内講師 院外講師		
目標					
助産の実践に必要な分娩介助技術を修得できる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	備考
1	2	分娩介助技術 の理論と実際	1) 分娩の準備 ・分娩室の環境、器材準備 ・手洗い・ガウンテクニック	演習	
2	2				
3	2		2) 分娩体位の調整 ・産婦の準備 (分娩体位) ・外陰部の消毒と清潔野の作成	演習	
4	2		3) 分娩介助技術 ・肛門保護、人工破膜、会陰保護 ・胎児娩出介助 ・出生直後の児のケア アプガースコア判定	演習	
5	2		3) 胎盤娩出介助	演習	
6	2		4) 軟産道診査 5) 母児の早期接触 6) 助産録の記録	演習	
7	2	分娩介助技術 (ファントム演習)	1) 模型演習 1 (グループ演習)	演習	
8	2		2) 模型演習 2 (グループ演習)	演習	
9	2		3) 模型演習 3 (グループ演習) 中間チェック	演習	
10	1		4) 模型演習 5 (グループ演習)	演習	
11	2		5) 胎盤精査と計測、出血量計測 6) 間接介助の役割、直接介助者との連携	講義 演習	
12	2	異常分娩の助 産診断とケア (異常判断と 適切なケア)	1) 分娩介助技術 さまざまな分娩体位と介助法 ①フリースタイル分娩)	講義 演習	
13	2		2) 異常分娩の助産 ②急速遂娩の診断と介助 (演習) 吸引分娩の適応・要約・条件 介助法	演習	
14	2		③無痛分娩 (麻酔分娩) のケア	講義	
15	2		④帝王切開分娩の母児のケア ⑤双胎の経膈分娩介助	講義 演習	
16	1		分娩介助技術試験 (ファントム試験) (45 分)		

授業形態	講義、演習
評価方法 点数配分	分娩介助技術試験 100点 履修規程第5条、第6条に定めるとおりとする。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・助産学講座7 ・助産師基礎教育テキスト7 ・分娩介助学 ・「分娩の介助技術」印刷テキスト ・写真でわかる助産技術アドバンス ・無痛分娩パーフェクトガイド
参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> ・マタニティ診断ガイドブック ・産婦人科診療ガイドライン 2023 産科編
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「助産学実習Ⅱ分娩期」における分娩介助の実施は、本科目の単位修得を前提とする。 （履修規程第4条2）助産学科の先修条件参照 ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

科目		単位 (時間数)	時期	講師	
※ 助産臨床推論		2 (45)	1 学期	教育主事 教 員 院内講師 院外講師	
目 標					
臨床推論の基礎を学び、周産期における母子の判断に必要な思考力を修得できる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	備考
1	2	助産臨床推論 総論	1) 助産臨床推論 総論 ・臨床推論モデル ・臨床推論の3ステップ 系統的情報集、スピードとトレンド	講義	
			・疾患論アプローチ、症状論アプローチ ・疾患スクリプトの発達		
3	2	妊娠期の臨床 推論	2) 妊娠期の臨床推論 ・下腹部痛	講義	
4	2		・頭痛		
5	2	分娩期の臨床 推論	1) 分娩期の臨床推論学習プログラム ①第1段階 (知識整理) 【事例1】 初産婦、前期破水 ・因子判別、入院時診断、初期プラン ・初期診断 ・パルトグラムの記載 ・リフレクション	講義 GW	
6	2				
7	2		②第2段階 (臨床思考) 【事例2】 経産婦 ・電話場面における臨床推論と対応 ・来院場面における臨床推論と入院判 断 ・初期診断とケアプラン ・リフレクション	講義 GW	
8	2				
9	2		③第3段階 (統合) 【事例3】 -シミュレーション- 経産婦、早期破水 ・分娩進行の判断と診断修正 ・CTG 判読 ・分娩準備の判断、応援要請 ・パルトグラム、助産録の作成 ・リフレクション	演習 GW	
10	2				
11	2	④第4段階 (応用) 【事例4】 初産婦、回旋異常、微弱陣痛 加速期遷延	講義 GW		

12	2		<ul style="list-style-type: none"> ・分娩進行の判断と診断修正 ・医師への報告タイミング、SBAR 報告 ・陣痛促進剤の使用時の管理 ・リフレクション 		
13	1		<ul style="list-style-type: none"> ・入院時の助産診断 記述 	試験	
14	3	産褥期の臨床推論	1) 産後にみられる症状と考えられる疾患、観察と判断視点、対応 ①呼吸困難	講義 GW	
15	2		②頭痛	講義 GW	
16	2		③外陰部の疼痛	講義 GW	
17	2		④発熱	講義 GW	
18	2		⑤不眠、流涙	講義 GW	
19	2	新生児期の臨床推論	1) 生後 24 時間以内に見られる症状と考えられる疾患、観察と判断視点、対応 ①呼吸障害	講義 GW	
20	2		②黄疸 ③けいれん		
21	2		2) 新生児仮死蘇生法の実際（演習）	講義 演習	
22	2		新生児仮死の評価と蘇生法（NCPR）		
23	1	筆記試験（45分）		試験	
授業形態		講義			
評価方法 点数配分		筆記試験 40 点（分娩期初期診断記述） 筆記試験 60 点（臨床推論） 履修規程第 5 条、第 6 条に定めるとおりとする。 ＊筆記試験、技術試験をそれぞれ合格することで単位認定する。			
テキスト		<ul style="list-style-type: none"> ・助産学講座 7 ・助産学講座 8 ・助産師基礎教育テキスト 6 ・助産師基礎教育テキスト 7 ・新生児学入門 ・日本版 救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト 			
参考図書等		<ul style="list-style-type: none"> ・マタニティ診断ガイドブック ・助産業務ガイドライン 2019 「正常分娩急変時のガイドライン」 			
備考		<ul style="list-style-type: none"> ・講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。 ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 			

科目		単位 (時間数)	開校時期	講師	
健康教育技法		1 (30)	1 学期	教育主事 教 員 院外講師	
目 標					
健康教育の原理と技法を理解し、女性の一生を通しての性と生殖に関わる健康問題について、助産の実践に必要な相談・教育・援助技術の基礎的技術を修得できる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	備考
1	2	健康教育の理論、技法	1) 健康教育とは 2) 健康教育の課題 ・健康教育の歴史的変遷 ・これからの保健指導 ・個別健康支援プログラムの必要性 3) 保健行動モデル ①保健行動の定義・分類 ②セルフケア行動とコンプライアンス行動 ③保健行動のモデル 宗像のシーソーモデル ヘルス・ビリーフ・モデル プリシード-プロシードモデル、P/W モデル 4) ヘルスプロモーションの考え方 ①ライフスキル ②ヘルスプロモーションのライフスキル	講義	
2	2	健康教育の実際	1) 健康教育の基礎理論の活用 ①小集団形成過程の理解 (形成期-混乱期-規範期-活動期) ②リーダーとリーダーシップスタイル 2) 健康教育と保健指導の形態 個人指導と集団指導	講義	
			3) 集団指導に応用される討議法 ・集団討議法 (ラウンドテーブル・ディスカッション) ・シンポジウム ・パネルディスカッション ・フォーラム、バズセッション 4) 健康教育における教育技術 ・仲間集団討議 (ピアグループ・ディスカッション) ファシリテーターの役割 ・講義・講演法 ・体験・参加型教育	講義	
4	2	健康教育技術 (演習)	1) 学級活動の企画・運営・評価 (1) 健康教育のプロセス	講義 GW	

5	2		(2) 保健指導技術 (演習) ①健康ニーズの把握と対象のアセスメント ②教育目標の設定、企画書作成の実際		
6	2	健康教育技術 演習	(3) 指導案の作成 (4) 実施と評価 計画：組織図、役割と責任、評価計画 ヒト、モノ、カネ、時間、場所の計画 評価：プロセス評価、成果効果 企画評価	講義 GW	
7	2				
8	3		・中高生への性教育講座 「赤ちゃん講座」 ・妊婦と家族への出産前準備教室 「ファミリー教室」 企画書検討会	演習 GW	
9	2		3) 訪問指導技術 (演習) ・家庭訪問	演習	
10	2	女性のライフ サイクルにお ける性と生殖 に関する健康 問題と援助	1) 思春期女性の健康問題とケア 摂食障害、月経異常、性感染症 思春期を対象とした性教育 ピア・カウンセリング	講義	
11	2				
12	2	カウンセリング の技法	1) 「聴く」ことの基本姿勢 ①カウンセリングの定義 ②カウンセリングの対象と目標	講義	
13	2		2) 治療的なコミュニケーション 望ましい応答・望ましくない応答 (ロールプレイ)		
14	2		3) カウンセリングの基本 ①ノンバーバルコミュニケーション ②ネガティブ・メッセージの伝え方 ③アサーティブとネゴシエーション ④カウンセリングの「枠」：時間、料金、 部屋 ⑤治療的距離	講義	
15	2		4) カウンセリング技法 ①明瞭化、要約、探索、反映 ②自己開示 ③ピア・カウンセリング ④グループワーク	講義	
16	1	終講試験 (45分)		試験	
授業形態	講義、演習				
評価方法 点数配分	筆記試験 75点 企画書 25点 履修規程第5条、第6条に定めるとおりとする。				
テキスト	・助産学講座 5				

参考図書等	<ul style="list-style-type: none">・助産師による思春期の健康教育・母子保健の主なる統計 令和6年刊行・助産学講座8・京都市保健事業のてびき（印刷配布）
備考	講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。